

報告日	令和 8 年 2 月 17 日 (火)	報告者	吉武惇二
分科会名	古文書を読む会	開催テーマ	江戸時代の大災害について
開催日時	令和 8 年 2 月 12 日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所	金沢公会堂第 2 会議室
参加人数	男性 10 名 女性 2 名 合計 12 名 (含む聴講者 3 名、欠席者 3 名)		
<p>本日の講義は、江戸時代の (1) 宝永 4 年 (1707 年) の富士山大噴火、(2) 天明 3 年 (1783 年) の浅間山大噴火、(3) 安政元年~2 年 (1854~55 年) の安政三大地震、等についてであった。</p> <p>(1) この宝永の富士山大噴火により駿河、相模、武蔵の広範囲にわたって火山灰が田畑などを埋め、作物が全滅した。また、堆積した降砂のため川底が上がり酒匂川が大氾濫した。また、火山灰は偏西風により東方に流され、御殿場 1m、小田原 90cm、秦野 60 cm、藤沢 25 cm、江戸 15 cm も積ったと記録されている (最大堆積量は須走 (すばしり) で約 3 m といわれる)。</p> <p>(2) 天明 3 年 (1783 年) に勃発した浅間山大噴火も広範囲の被害が出、特に上州側の山麓では何カ所もの村が埋没し、流失した。特に鎌原村の被害が大きく、村民約 8 割が死亡、家庭では生き残った夫又は妻が他家の生き残った妻または夫と再婚するなど悲惨な状況が報告され、又逃げ延びようと観音堂の階段途中まで登って力尽き熱泥流に呑み込まれた二人の遺骨が発掘されるなど目を覆いたくなる惨状の写真がある。</p> <p>(3) 安政元年の 11 月 4 日と 5 日の 2 日連続して大地震が発生したので、東南海トラフ地震という。いずれもマグニチュード 8. 2 (津波被害甚大) といわれている。さらに 1 年後の 10 月 2 日には江戸に直下型大地震マグニチュード 6・9 がおこり、この 3 つを合わせて「安政三大地震」と呼ばれている。</p> <p>なお嘉永 7 = 安政元年はわずか 1 か月で安政 2 年となり、嘉永→安政への暦年変更はかえって人災天災が絶えず、逆効果となった。</p>			
<p>次回予定 令和 8 年 3 月 12 日 (木) 10:00~12:00</p> <p>場 所：金沢公会堂第 2 会議室</p> <p>テーマ：(1) 藤原鎌足の墓発見 (2) 藤原藤不比等 (3) 基 (もとい) 皇子の死とその後の影響</p>			